

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2022.8.30 発行

vol.130



現地教員と談笑する海外臨床実習中の医学部6年生(ベトナム・フエ医科大学病院外科にて)

特集
1

医学部6年生 初の海外臨床実習

特集
2

生涯学習センター 再編成



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

医学部6年生 初の海外臨床実習

医学部6年生の海外臨床実習が6～7月にアジアや欧米の医療機関で行われた。本学は2017年4月の医学部開設以来、「革新的な医学教育」を掲げて、英語による医学教育や学生主導・参加型のアクティビティなどを実践してきた。第1期生が初めて臨む海外臨床実習は、その「総仕上げ」との位置付けだ。6年生134人のうち、最多の71人が参加したベトナムでの臨床実習を中心に報告する。



●6月4日、成田空港出発ロビーで記念撮影

本学医学部独自の 6年生全員対象の海外臨床実習

本学医学部のディプロマポリシー（学位授与の方針）の一つに「医療の国際化に対応した幅広い知識と高いコミュニケーション能力をもち、海外の医療現場で活躍できる」とある。学生の7人に1人が留学生という国際色豊かな学修環境のなか、グローバルに活躍する医師の養成は本学が自らに課した使命と言える。海外臨床実習を全員必須とするカリキュラムは他の医学部にはないユニークな特徴の一つだ。

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るうなか、医学教育統括センター長の赤津晴子教授らを中心に昨年以降、アジアや欧州の複数の提携校とのオンライン会議を繰り返し行い、学生派遣の準備を進めていた。しかし、今年に入ってからのさらなる感染拡大に、ロシアによるウクライナ侵攻も加わり、外務省が渡航の中止や退避を勧告する国での実習は断念



せざるを得なかった。元々の候補のなかで唯一残ったのが、ベトナムだった。特別な注意を払い、十分な安全対策を講じれば渡航可能とされた。高木邦格理事長、鈴木康裕学長が直前に現地視察を行い、受け入れ態勢や新型コロナの感染対策などを確認したほか、赤津教授らは学生と保護者に対して、海外臨床実習の意義や現地での安全対策などを丁寧に説明し、理解を得たうえで実現の運びとなった。



●ホーチミン市医科大学の実習にて

国立チョーライ病院をはじめとする ベトナムの多彩な実習先

実習は、ベトナム南部の商業都市・ホーチミン、かつての王宮などが点在する中部の古都・フエの6病院に分かれ、内科、外科のほか、熱帯病科、小児科、産婦人科、耳鼻科などから希望する診療科を選んで4週間の日程で行われた。

ホーチミン市の国立チョーライ病院は、病床数が約1900、手術件数は年間約4万の巨大病院。ここには本学の関連施設・ドック健診センター（HECI）が設置されている。遠隔病理診断システムを用いて病理検体の二次診断を日本から支援するなど、医療水準の向上をめざした交流が続いている。今回は見学実習が行われた。また、熱帯地域のため蚊を媒介したデング熱は全国で感染のリスクがあり、マラリアや日本脳炎なども含めた感染症の治療・研究も熱心に行われている。

経済成長が著しいベトナムは出生率が高く、平均年齢も約30歳と若い、将来の可能性を秘めた国の一つだ。少子化の日本とは対照的に、産科や小児科の医師数や症例数も多い。実

習先の一つ、ホーチミン市の国立フンブン病院は、年間の分娩数が約3万5千～4万件に上る。最も多い病院で4000件前後の日本では考えられない数だが、この分野を希望する日本の医師の卵たちからすれば魅力的な環境に映つただろう。

このほか、ホーチミン市医科大学病院センター、フエ医科大学病院が実習先となった。参加した6年生は、各診療科で多くの症例に触れながら、現地の指導医や医学生と議論を重ねて理解を深めたり、日本と異なる医療事情や文化・慣習に戸惑いつつも、海外で医師として働くことへのイメージを持てるようになったりするなど、それぞれに新たな発見や刺激を得た貴重な4週間を過ごした。

海外臨床実習後に行ったアンケートの結果、渡航組の90%以上が実習中に多くの学びがあったとし、95%の学生が海外臨床実習に満足していると回答した。

コロナ禍に配慮した バーチャル海外実習も実施

ベトナム以外の国では、将来の希望に照らしてアメリカ、ドイツ、イギリスなどの病院を実習先に選ぶ学生も10人ほどいた。アジア6か国の政府や提携校から推薦されてきた留学生は、母国モンゴルやインドネシア、カンボジア、ミャンマーなどで研修を行った。また、今回はコロナ禍や難しい国際情勢のなかでの実施という特別な事情に鑑み、50人ほどが成田キャンパスに残り、「バーチャル海外実習」に取り組んだ。

ここで、ベトナムから6症例、カンボジア、インドネシア、モ

ンゴル、ミャンマーから各1症例の計10症例を用いたケース・スタディがオンラインで繰り広げられた。「発熱とせきを主訴に来院した30か月男児」の症例検討会では、ベトナムの小児科医と英語で質疑を行い、治療のアプローチを考えたり、病気の背景にそれぞれの国の生活や文化的な背景があることを学んだりした。赤津教授は「症例ごとに教育のポイントを明確にした」と語り、テーマも蚊を媒介とする病気への最新のテクノロジーを駆使した新しい解決方法や、世界のホームレス問題、途上国の交通事故など多岐にわたった。

バーチャル海外実習組も、実際に海外で実習をしているように感じた、とアンケートに答えた学生が85%を超えた。症例の選定から問診、鑑別診断、現地医師の講義、学生同士のディスカッションなど、全体によく練られたプログラムの質の高さが高評価につながったとみられる。



●国立チョーライ病院にて

実習に参加した学生から

●黒坂 優子さん（国立チョーライ病院（ベトナム））



4週間の実習を脳神経外科で行った。現地の医療者や学生と多く交流する中で、今まで受けてきた医学教育が世界普遍のものだと改めて実感した。また、週2回の夜間当直では、ベトナム特有の交通事故による頭部外傷患者が毎回10件程搬送され、多くの緊急オペに参加させてもらった。発展途上国の医療、文化を間近で実際に学ぶことで、大変貴重な経験となった。

●小池 朔太郎さん（国立チョーライ病院（ベトナム））

4週間の実習を脳神経外科で行った。現地の医療者や学生と多く交流する中で、今まで受けてきた医学教育が世界普遍のものだと改めて実感した。また、週2回の夜間当直では、ベトナム特有の交通事故による頭部外傷患者が毎回10件程搬送され、多くの緊急オペに参加させてもらった。発展途上国の医療、文化を間近で実際に学ぶことで、大変貴重な経験となった。



海外での実習は初めてで新鮮なことばかりだった。毎日新たな発見や学びがあり、大変貴重な経験ができた。環境が異なれば提供可能な医療だけではなく、求められることも違うことを実感した。また、現地の医学生との交流を通して、医療現場にも深く根付いているベトナムの文化をより深く知ることができた。

●齊藤 明良さん（ピッツバーグ大学メディカルセンター、ウェストモーランド病院（米国））



オペ（手術）の見学では、心臓手術をメインに日本で目にする機会が少ない、銃創、肝移植、肺移植の見学ができた。現地で活躍する多くの日本人医師から話を聞き、将来的の進路について相談に乗ってもらった。志望する科のレジデンントは、競争率が高く、入るのが非常に難しいので、より一層頑張らなければ感じている。

●堀 莉野さん（バーチャル海外実習）



普段の病院で行う臨床実習と異なり、貧困など公衆衛生に基づく課題をグループで考える時間がたくさんあった。将来医師としてすぐには正解が出ない問題に向き合わないといけない時もあると思う。それには、今回の経験がきっと役に立つと思っている。



6年生の第1回海外臨床実習を終えて

6年生全員が必須で海外臨床実習を行うのは、希望者のみに海外実習の機会を提供する他の医学部と異なり、本学のユニークさを示すもの。

新型コロナウイルスが世界的に蔓延し、ロシアによるウクライナ侵攻も始まるなか、90人近くが海外での実習に参加しました。今回は厳しい世界情勢を考慮し、50人ほどが成田キャンパスで「バーチャル海外実習」に取り組みました。おそらく世界初の試みだと思います。

実習後のアンケート結果では、バーチャル組の全員が「毎症例を通して新しいことを学べた」とし、95%が実習を「楽しかった」と答えました。取り上げる症例について、ベトナムなどの医師と事前にオンラインで綿密な打ち合わせをして臨んでおり、結果を見てホッとした。

「海外の医療現場で活躍できる」という本学のディプロマポリシーに、学生たちが一歩近づけたことをうれしく思います。

医学教育統括センター長/教授 赤津 晴子



ホーチミンでの海外臨床実習引率を終えて

ベトナムのホーチミンで日本人54人、ベトナム人3人の学生を引率しました。実習は、本学が26年前から交流のある国立チヨーライ病院およびホーチミン市医科大学と国立フンブン病院の3施設が運営しました。

内科系、外科系、産婦人科を中心 に1診療科あたり1~5人の学生が配属されました。実習先のカンファレンスでは、どの学生も指導医らと英語で対話しているのが印象的でした。

また、ホテルと実習施設間の通学や食事は、主に「GRAB」というタクシーアプリと出前アプリが合体したアプリを使いこなしていました(タクシ一片道300円程度)。週末には、日用品からお土産の買い物、観劇を楽しんだり、実習先の学生や研修医、指導医と交流したりしていました。

一時的に体調不良に見舞われた学生も少なくありませんでしたが、それ以外は皆元気に実習や文化交流を楽しんでいました。

副医学部長/医学部長/医学教育統括センター教授
吉田 素文



●ホーチミン市第1小児病院にて



●バーチャル海外臨床実習(成田キャンパスにて)



●フンブン病院にて



●フエ医科大学病院での修了式 ●フエ医科大学病院で記念撮影

2022年度海外臨床実習の概要

行程 ベトナム

6月	4日	ベトナム到着
	6日	オリエンテーション・実習開始
	7~30日	診療科別実習
	1日	修了式
	2日	帰国

実習先内訳

国	人数
ベトナム	71人
アメリカ	6人
韓国、モンゴル、インドネシア	各2人
ドイツ、イギリス、カンボジア、ミャンマー	各1人
バーチャル海外実習(成田キャンパス)	47人

引率教職員

副医学部長/医学部長/
医学教育統括センター教授
(肩書きは当時)

吉田 素文

副医学部長/病理・病理診断学主任教授/
基礎医学研究センター長

潮見 隆之

医学教育統括センター副センター長/
感染症学教授

矢野 晴美

消化器外科学主任教授
国際交流センター

板野 理
佐野 美智子、藤原 志保

支援教員

医学教育統括センター長/教授
公衆衛生学教授

赤津 晴子
和田 耕治

Campus report special edition

キャンパスレポート特別編

高木理事長による大学入門講座
「国際医療福祉大学へようこそ」開講

●大田原キャンパス大講堂にて

国際医療福祉大学の成り立ちや大学生としての学びの姿勢について理解を深めることを目的に、新入生を対象として開講されている大学入門講座。5キャンパス共通の講義と各キャンパス独自の講義で構成され、学長をはじめさまざまな講師が登壇している。この講座の第7回・第8回の講義「国際医療福祉大学へようこそ」をこのほど、高木邦格理事長が務めた。「建学の精神と基本理念」について講義する前半部を大田原キャンパス大講堂で、「学校の沿革を踏まえた今後の展望」について講義する後半部を、成田キャンパス体育館で行った。大田原キャンパスでは約800人(大講堂以外の教室でリモート聴講した学生も含む)、成田キャンパスでは400人超の学生が聴講した。



●大田原キャンパスで講義する高木理事長

改めて知る母校の成り立ち

6月21日、大田原キャンパスで高木理事長による講義「国際医療福祉大学へようこそ」の第一部「建学の精神と基本理念～どのような学びの場を発展させてきたか～」が行われた。

冒頭、高木理事長は、「学生の皆さんに自分の通う大学の歴史や理念、アイデンティティを改めてよく知ってほしいという思いでお話しします」と講義の意義を学生に伝え、国際医療福祉大学グループの発祥となった1910年開院の福岡県大川市の「高木眼科医院」について紹介。メディカルスタッフの地位向上をめざし、日本初となる医療福祉の総合大学を1995年に開学するまでの経緯をはじめ、「共に生きる社会」の実現を大学の理念としたこと、質の高い学びを実践するため、各専門分野の第一線で活躍する優秀な人材を学科長や教員として採用したことなどについて解説した。また、アジア各国の医療福祉分野のリーダーとなる人材の育成に寄与することを目的に、これまで多数の奨学生を受け入れてきたことなどにも触れ、講義は終了した。

第二部となる「医学部新設を含む国際医療学園都市構想の取り組み」は、7月9日、成田キャンパスで行われた。チーム医療と多職種連携を重視し、開学から一貫して医療福祉の専門職を養成してきた本学が、国による厳しい規制のなか医学部開設を実現するまでにはさまざまな苦難を乗り越えねばならなかったことをはじめ、高齢化によって医療需要が高まる一方、医師不足が深刻であるという日本の医療をとりまく状況についても解説した。大田

原、成田のいずれの会場においても、集まった1年生たちが熱心に聴講する姿が見受けられた。

聴講した学生からの感想

理事長による講義を聴講した学生からは下記のような感想が寄せられた。一部抜粋して紹介する。

(大田原キャンパス)

「本学の歴史について詳しく学ぶことができた。学生を思って作られた施設の数々を有効に活用し、学修を充実させてより良い大学生活を送っていきたいと思った」(薬学科)。「若かりし頃からたくさんの苦労をし、本学を創設されたと知って感銘を受けた。本学の名に恥じないよう一生懸命勉学に励み、将来作業療法士として社会に貢献していきたいと思いました」(作業療法学科)。「グローバルな社会で常に海外に目を向け幅広い視野で物事を捉えることが大切だと思いました」(放射線・情報科学科)。「大学の関連施設などを知ることができたので将来働くかもしれない施設の選択肢が広がった」(医療福祉・マネジメント学科)。

(成田キャンパス)

「本学がどのような理念に基づいて創立したのかを知ることができた。多方面に開かれている本学で知識を積み、自分の持っている力を十分に発揮できる場を見つけてていきたいと思った」(看護学科)。「本学には多彩な分野で活躍している教員が集まっていることを知った。この恵まれた環境を有効に活用しながら学修していきたい」(理学療法学科)。「医学部新設には大変な苦労があったことがわかった。また、将来はこの大学で培った技術で世界に通用するような言語聴覚士になりたいと思った。他の職種の方ともコミュニケーションをとり、チーム医療・チームケアを実践していきたいと思う」(言語聴覚学科)。



●成田キャンパスでの講義の様子

国際医療福祉大学 生涯学習センター 再編成

対象と機会の拡大でより幅広い学びのサポートが可能に

看護分野の人材育成、生涯学習支援のため設立され17年間の歴史を持つ国際医療福祉大学の看護生涯学習センターが、2022年度から医師・メディカルスタッフへと生涯学習の対象と機会を拡大し、生涯学習センター（事務局・東京赤坂キャンパス、三浦総一郎センター長）として生まれ変わった。

医療現場でリーダーシップを発揮して活躍するために

医療従事者の生涯にわたる学習を支援

このたびリニューアルした国際医療福祉大学生涯学習センターは、医療従事者の生涯教育を目的とする教育機関です。本センターの前身は、2005年に設立され長年にわたり看護師の生涯学習教育を支援してきた看護生涯学習センターです。2022年度の新たな編成により、その対象範囲は看護師のみならず医師や多彩なメディカルスタッフの医療職種に広がりました。医療従事者の生涯にわたる学習を支援するさまざまなプログラムを用意しています。大学院のヘッドオフィスである東京赤坂キャンパスを中心に、全国の本学キャンパスや関連医療施設とも密に連携して教育内容の充実をめざしています。

より実践的な学びの場に

本センターは2006年に日本看護協会認定看護管理者教育機関としての認定を受け「ファーストレベル」を開講しましたが、現在は毎年「ファーストレベル」「セカンドレベル」「サードレベル」の3課程を開講しており、管理者として活躍できるエキスパートを多く輩出してきた実績を持ちます。毎年3課程を欠かさず継続して教育している認定教育機関は本センターを含めて全国でもわずかであり、管理者教育の積み重ねを経て充実した教育機関となっております。また講師陣に関しても、学内の看護管理に造詣の深い講師のみならず、外部講師を含む幅広い分野からの講師の協力を得ながら講義や演習を行い、管理者として



●三浦総一郎生涯学習センター長

て必要な内容を学問的、実践的、両面から学べるように編成しています。さらに2022年4月より、東京大学医学部附属病院看護部長、副院長を歴任された小見山智恵子先生が、生涯学習センター看護部門統括責任者として着任されたことで体制もより強化されました。

また、本年度からは、新たに医療安全管理者養成研修講習会を開始いたします。医療の質や安全確保の中核的な役割を担う医療安全管理者の養成プログラムであり、厚生労働省より出された「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」に則った内容とされています。

人生二度三度の学びが必要な時代、多職種連携で挑む医療現場のなかで常にリーダーシップを発揮して活躍するには、日進月歩で進化する最先端の知識と技能を常に学び直す必要があり、本学は学び続ける医療従事者を積極的にサポートする必要性があると考えています。今後は、医学分野やリハビリテーション分野における新しい生涯学習制度に対応した研修の提供や、修了者向け講演会・フォローアップ研修のさらなる整備などにも尽力してまいります。医療専門職として活躍する皆様のご受講をお待ちしています。

〈生涯学習センターの沿革〉

- 2005年4月 看護生涯学習センター設立
- 2006年6月 日本看護協会認定看護管理者教育機関としての認定を受け
認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」開講
- 2007年9月 認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」開講
- 2009年4月 認定看護管理者教育課程「サードレベル」開講
- 2016年1月 認定看護管理者教育機関認定更新制度の導入に伴い、教育機関としての認定審査を受審し、3課程とも認定更新
- 2019年4月 国際医療福祉大学「保健師助産師看護師実習指導者講習会」の事務局となる
- 2022年4月 「国際医療福祉大学生涯学習センター」となる



●生涯学習センターが入る東京赤坂キャンパス

学習機会の提供で医療の質向上に貢献したい



小見山 智恵子

生涯学習センター看護部門統括責任者
国際医療福祉大学グループ病院
統括看護部長兼医療人材開発部長

略歴 厚生省看護研修研究センター看護教員養成課程、千葉大学大学院修士課程修了(看護学修士)、東京大学医学部附属病院看護部長、副院長を経て本学着任。

このたび、小見山智恵子先生が、生涯学習センター看護部門統括責任者および国際医療福祉大学グループ病院統括看護部長兼医療人材開発部長に着任された。就任にあたり、「患者様や社会が求める良質な医療を提供し続けるため、そして一人ひとりがやりがいをもって働き続けるためには、学習の機会や互いを高め合える職場環境が必要です。看護師の確保と育成、職場づくりの観点から、学習と医療現場のよき循環をめざし、医療の質向上に貢献したいと思います。ご指導のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます」と抱負を語った。

医療安全への関心を高める文化の醸成を

医療安全管理者とは

医療安全管理者は、医療安全対策に係る適切な研修を修了した専従の看護師、薬剤師、その他の医療有資格者を指す。医療安全管理者は、安全管理体制の構築と整備、推進のための運営を行う。その役割は、医療安全における指針の整備、委員会や推進室の設置、事故対応時のマニュアルの整備など多岐にわたる。

第1回医療安全管理者養成研修開催

新しく編成された生涯学習センターでの第1回研修は、多くの医療施設を有する医療福祉の総合大学である国際医療福祉大学ならではの大学単独主催による開催で、コロナ禍、安全第一を心がけ、募集人数を絞り、22人の受講者が参加、修了した。参加者はいずれも本学附属・関連病院の病院長、各科部長クラスだったが、今後はグループの外にも受講者を広げていく予定だ。

第1回はeラーニングで29科目の計30時間とオンラインによる集合演習12時間の総計42時間。eラーニングの視聴期間は4月22日から7月10日までとし、オンラインによる集合演習は4月30日、5月14日、5月28日に3回に分けて行われた。

プログラムは厚生労働省医療安全推進室の「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」に準拠して、事前に厚労省からの認証を受けた。本来は対面式が原則で、オンライン中心のプログラムはコロナ禍の特別体制だが、栃木県や福岡県など遠隔地からの参加者が移動することなく受講できるという利点もあった。

講師陣は本学内のエキスパート中心の布陣で、日本医療機能評価機構のエキスパートにも依頼した。

「医療安全対策加算」届け出が可能に

講習修了者は医療安全管理者として「医療安全対策加算」の届け出が可能となる。各項目の学習後には講義内容を踏まえた知識確認試験が出題され、各講師への質問も可能だ。また、医師ばかりでなく、看護師、薬剤師などのほか、事務職も参加可能で参加資格に制限はない。

2回目の医療安全管理者養成研修申し込みは8月ごろから開始される予定で、eラーニング視聴期間は11月から12月までの1か月半を予定している。(右記実施予定参照)

今後の展開

本年度からは、これまでの看護対象の「認定看護管理者教育課程」「保健師助産師看護師実習指導者講習会」カリキュラムに加え、多職種を対象とした医療安全管理カリキュラムやリハビリテーション職種（作業療法士／理学療法士／言語聴覚士／臨床検査技師／臨床工学技士）などを対象としたカリキュラムが展開されていく予定だ。

三浦センター長は「多職種連携で挑む医療現場で常にリーダーシップを発揮して活躍するには、進化する最先端知識、技能を取り入れてブラッシュアップし、生涯にわたる学び直しを積極的にサポートする必要があると考えている。今後は医師やリハビリテーション分野の新しい生涯学習制度に対応した研修の提供や、修了者向けの講演会やフォローアップ研修の整備にも尽力していきたい」と話している。

2022年度 第2回医療安全管理者養成研修実施予定

★開催方法e-Learning (VOD、29科目合計30時間)

+オンライン集合演習 (合計12時間):合計42時間

★e-Learning視聴期間

11月～12月の1か月半を予定

★Zoomオンライングループ演習日程

祝日コース

●11月3日(木・祝)

10:00-12:30 項目11

13:30-15:30 項目17

演習1

15:45-17:45 項目17

演習2

●11月23日(水・祝)

11:00-12:30 項目27

13:30-15:30 項目17

演習3

15:45-17:45 項目17

演習4

土曜コース

●11月5日(土)

13:30-16:00 項目11

16:15-17:45 項目27

●11月19日(土)

13:30-15:30 項目17

演習1

15:45-17:45 項目17

演習3

15:45-17:45 項目17

演習4

★受講料：学内：40,000円/学外：80,000円

★申込開始：8月ごろの予定。

当生涯学習センターのwebサイトでご案内します。

問い合わせ 電話：03-5574-3835

生涯学習センターwebサイト：

<https://www.iuhw.ac.jp/mcec/tokyo/index.html>

各キャンパスで開催！夏のオープンキャンパス

各キャンパスでオープンキャンパスを開催しました。いずれのキャンパスでも新型コロナウイルス感染対策にはこれまで通り万全を期し、来場者に楽しみながら医療福祉分野の学びと仕事の魅力を体感していただくプログラムを準備しました。各キャンパスともに在学生が積極的に運営に参加し、多くの来場者と交流。盛況のうちに終了しました。

大田原キャンパス

大田原キャンパスでは7月31日、夏のオープンキャンパスを開催した。

この日はまず、新井田孝裕副学長が本学の概要説明を行う「オープニングメッセージ」からスタート。その後は各会場でさまざまなプログラムが開催された。

6月開催のオープンキャンパスに続き、参加者が学内を自由に見学できるコロナ前と同様の形式で実施した。

今回はさらに参加者に満足してもらえるようプログラムを追加。その1つである「保護者ガイド」は、大学入試の概要だけでなく、入学金や授業料など費用の詳細や、本学で取り組んでいる学生生活サポートについても詳しく説明した。また、広大な大田原キャンパスをバスで回る「ぐるっとバスツアー」では、学生スタッフがガイド役を務め、関連施設も含めたキャンパス内の主な建物について説明した。



●視機能療法学科での体験風景

Otawara

新型コロナウイルス感染の第7波により、開催日直前の参加キャンセルも少なくなかったが、参加者数はコロナ前の2019年夏を上回る結果となった。

コロナの影響により、過去2年にわたってオープンキャンパスを満足に体験できなかった現3年生は、今回のオープンキャンパスに積極的に参加し、それぞれの持ち場で生き生きと活躍していた。（入試広報室 川上二郎）

館のほか、心理相談に訪れる人たちが使用するプレイルームや箱庭療法が体験できる部屋などを見て回った。正面入り口脇に展示されている「赤坂氷川山車」の紹介も行われ、都心にありながら、伝統的なお祭りを通じて地元の皆様と交流を深めている様子に驚く来場者の姿もあった。

Tokyo Akasaka

（広報企画部 赤津良太）



●好評だった心理学科の模擬授業

●医療マネジメント学科の学科体験

成田キャンパス

初夏の風が清々しい6月4日、成田では3学部（医学部、成田看護学部、成田保健医療学部）足並みをそろえてのオープンキャンパスが開かれ、約800人が来場した。

今年度最初のオープンキャンパスでは、実際の学びを肌で感じてもらうため、各学科とも在学生が多数運営に参加して「体験実習」や「見学ツアー」を実施した。

医学部では、本学の特徴である英語での医学教育を担当教員と学生でわかりやすく解説。続いて、世界最大級の規模を誇る成田シミュレーションセンター(SCOPE)の見学ツアーでも学生が案内役を務めた。



●医学部の見学ツアーでSCOPEを紹介する学生

●高校生に実験を体験してもらった医学検査学科

●乳幼児ケアの体験を行った看護学科

Narita

看護、保健医療の各学科では、資格取得をめざす医療職種や学科での学びを幅広く知っていただくため、来場者が自由に参加できるフロアツアーや体験実習が用意された。ここでも教員の指導のもとで在学生が活躍し、高校生らに乳幼児のケアや車イスの使用などを体験してもらった。来場者からは「学生さんと話せて楽しかった」「いろんな学科の体験をして興味が持てた」といった声が聞かれた。

この日は、来春開設される「介護福祉特別専攻科」の説明と相談も行われ、担当教員が来訪者にマンツーマンで説明にあたった。（広報 編賀尚子）

東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスでは6月11日と7月17日にオープンキャンパスを開催。両日とも天候に恵まれ、多数の来場者が訪れた。午前中は心理学科、医療マネジメント学科の体験プログラムが行われ、来場者と在学生が体を動かしながら心理学の理論を学ぶ授業では、説明通りの結果が出ると感心のあまり拍手が起る場面もあった。また、キャンパスライフを実感してもらうランチ無料体験は、新型コロナウイルスの感染予防で黙食を呼びかけるなかで行われたが、緑豊かな赤坂離宮を窓から臨む開放的なカフェテリアの雰囲気を楽しんでいた。午後の入試対策の説明に移ると、一転して参加者は真剣な表情に。専願制対策の講義では、熱心にメモを取る姿が見られた。施設見学ツアーでは、最新の専門書や資格試験対策の参考書などが充実した図書館や体育

はの盛り上がりとなった。入試や学科の説明だけでなく在学生からの情報発信により、本学の魅力を伝えることができた。今後の開催では在学生との交流企画を増やし、「小田原で学ぶ」ことの良さをより多くの学生に発信していく。（学生募集・広報係 藤田淳子）

Odawara

●学科体験（作業療法学科）



●学科体験（理学療法学科）

大川キャンパス

今年の大川キャンパス「夏のオープンキャンパス」の特長は、職種への理解を深めてもらうため、毎回、学科ごとに各医療専門職の説明と学科紹介の時間をしっかり設け、その上で体験プログラムに参加していただいた点だ。

特に、理学療法学科と作業療法学科に関しては、毎回、合同での職種説明を実施。右の手足に麻痺が残った患者様を例に、理学療法士、作業療法士がそれぞれどのような役割を担うかを、両学科の教員が分かりやすく説明した。

学科紹介では、全学科とも、3月に実施した春のオープンキャンパスで好評を博した「卒業生トーク」をプログラム化。体験プログラムでは、感染予防対策を講じた上で、在学生たちが指導係となって各学科の学びを参加者の皆さんに体験していただいた。

アンケートには、「職種や学科についての説明が丁寧でよくわかり、より一層、学

科への興味がわいた」「たくさんの体験メニューで、大学で何を学ぶのかがイメージできた」「在学生や卒業生の話を聞いて、ぜひ、この大学へ入りたいと思った」といった声が多く見受けられた。

6月25日（土）に看護学科説明会、7月17日（日）・24日（日）に福岡保健医療学部オープンキャンパス、7月23日（土）に福岡薬学部説明会、8月6日（土）・21日（日）に福岡保健医療学部・福岡薬学部オープンキャンパスを終了。次回開催は、9月11日（日）の看護学科説明会となる。（入試学生募集課 帆足リエ）



●在学生による指導



●多くの参加者が集まつた

Okawa

第26回あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式開催

第26回国際医療福祉大学・あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式が6月22日、東京都渋谷区のあいおいニッセイ同和損害保険本社で行われた。式では、大田原キャンパスの薬学部薬学科2年増山(ましやま)愛里さんと、成田キャンパスの医学部医学科1年でミャンマー出身のキンニエンチャンキンさんが、新納(にいろ)啓介社長から認証状を手渡された。残る10人の奨学生はオンラインで参加した。

奨学生の総数は1997~2021年度に225人、奨学金は総額4億7000万円に上る。

認証式で新納社長は「いろいろな可能性を持つ奨学生の皆さんには、新しいことにどんどん挑戦していっていただきたい」と激励。増山さんは「病気で苦しむ患者さんの心の拠り所となるような薬剤師をめざします」、キンさんは「母国の医療向上に貢献できるよう、今まで以上に勉強し、優秀な医者になることを誓います」と力強く話した。

鈴木康裕学長は、あいおいニッセイ同和損害保険の長年の支援に謝意を示した上で、「新型コロナウイルスの影響で家庭の経済事情が厳しく、この奨学金は学生にとって命の綱となっている。奨学金の趣旨を最大限生かせるように、学生、教職員共々努力をしたいです」と決意を述べた。

(広報企画部 赤津良太)



●鈴木学長(前列左)、新納社長(前列右)、奨学生代表の2人で記念撮影



●オンラインで参加した奨学生たち

USMLE合格者に受験料を支援 医学部生の挑戦促す

米国の医師国家試験に相当するUnited States Medical Licensing Examination(略称USMLE)への挑戦を促すため、本学はこのほど、USMLEのStep1ならびにStep2ckに合格した医学部生に対して、受験料を支援する取り組みを始めた。米国はじめ世界の医療現場をめざしてUSMLEに挑む学生の増加が期待される。

7月上旬に成田キャンパスで行われた制度発足とともに贈呈式には、医学部6年生の堀莉野さん(Step1、Step2 ck合格者)ら、これまでに合格した留学生1名を含む学生5人が出席し、河上裕医学部長から合格者への表彰と併せ目録が贈られた。豊富な在米臨床経験を持ち、USMLE受験、医学英語をはじめ、医学教育全般を指導してきた医学教育統括センター長の赤津晴子教授は、席上、「おめでとうございます。なにごともチャレンジして、世界を舞台にご活躍ください」と激励した。

堀さんは、5年生でStep1に、6年生でStep2ckにそれぞれ合格した。「Step2ckはStep1よりも日本の医師国家試験に近く、個人的には勉強しやすかった



●河上裕医学部長から目録を贈呈される堀莉野さん㊨ ●目録を手にするUSMLEの合格者と医学部の先生方

が、臨床実習の合間に勉強時間を確保するのが大変だった」と受験を振り返り、「支援金をいただけるとは思ってもいなかったのでうれしい。USMLEの支援態勢はどんどん整っているので、本学からたくさん合格者が出来ることを願っている」と語った。

赤津教授によると、7月現在で判明した本学のUSMLE合格者は、Step1が10人、Step2ckが1人の延べ11人に達し、受験者、合格者ともにこれからさらに増える勢いだ。合格者に対する支援金は、Step1、Step2ckいずれも5万円。実際の受験料納付はドル建てとなるため、外為相場の円安ドル高傾向が続くなかで新たな制度は貴重な支援となっている。

(広報 綿貫尚子)

フレッシュマンプログラム開催

5月21日(土)、小田原キャンパスでは、新入生を対象にした「フレッシュマンプログラム」を開催した。今年は、小田原散策とクイズを行った。

午前と午後で3学科混合の12グループに分かれて、小田原の歴史や文化を学ぶとともに、学科の枠を超えた学生間の交流を深め、人間関係を築くことを目的とした「小田原を知るウォークラリー」を実施。このプログラムでは、小田原まちづくり応援団のボランティアの方々による各施設の説明を受け、小田原の歴史を学びながら小田原市内を散策した。小田原城や財政界人の邸園などの歴史的名所や、おすすめショップなどをめぐる散策コースが4つあり、各コースのチェックポイントではその場所に合わせたクイズが行われた。どのグループも、班の仲間と協力して解答を導き出していた。



●小田原まちづくり応援団のボランティアの方から説明を受ける学生たち



●小田原キャンパスからほど近い場所に立地する小田原のシンボル、小田原城

古武道の技と精神に学ぶ

ベルマーク運動は企業の社会貢献活動として古くから取り組まれているもので、本来は学校でベルマークを集め、その学校で使用する学用品と交換するという仕組みだ。

このベルマークが被災地の学校支援に活用できることを知り、本学では2014年から自然災害に見舞われた被災地支援活動として取り組みを実施してきた。これまで東日本大震災や熊本地震、栃木県にも大きな被害をもたらした台風19号の被災地域などに寄贈している。

2021年度は発生から10年が経過した東日本大震災の被災地域である宮城県岩沼市の小中学校全8校に、計53万6253点分の寄贈を行った。岩沼市は震災当時医療福祉・マネジメント学科介護福祉コースに在籍していた沼田ゆきえさんが、実家帰省中に津波の犠牲になられた場所であり、震災から10年を期して今回寄贈先とさせていただいた。

今後もベルマーク活動へのより一層のご協力をお願いする。

(IUHWボランティアセンター センター長 大石剛史)



●寄贈先の1つとなった岩沼北中学校の生徒たち

スポーツ競技となった学校武道と異なり、戦国の実戦で鍛えられた古武道には、命をかけた「気迫」がみなぎる。この日の授業では、真剣の持つ重量を生かした「巻き打ち」という独特的の基本技にはじまり、居合術や二刀流の刀法、さらに脇、小手裏など鎧(よろい)の弱点に斬りこむ数々の演武が行われた。また、講話ではこうした技の解説とともに、自己よりも人のために尽くすという「忘己利他」の精神についても取り上げられた。

実技展示では、剣道部出身の学生が木刀による打ち込みの指導を受け、学校武道との違いを体験した。受講生の課題レポートには、「無駄な動きがなく、素早い太刀筋に圧倒された」「人を斬る技であるが故に無益な争いは避けて言動を慎むという修養が勉強になった」といった感想が記されていた。

(総合教育センター 山本秀也)



●受講生を前にした門人の方々による演武

Institution Information 施設インフォメーション

●国際医療福祉大学成田病院 ●国際医療福祉大学病院 ●国際医療福祉大学三田病院
 ●国際医療福祉大学熱海病院 ●国際医療福祉大学市川病院 ●国際医療福祉大学塩谷病院 ●山王病院／山王メディカルセンター

国際医療福祉大学成田病院

JALから医療従事者応援イベントご招待

7月2日(土)、日本航空(株)成田空港支店から医療従事者への感謝と応援イベントとして、ブルーベリー狩りとJALが運営するレストランでのランチにご招待いただき、看護師をはじめとするスタッフ25人が参加した。

ブルーベリー狩りに始まり、JAL特製ピーフカレーのランチ、参加者一人ひとりの名前が入ったメッセージカード、JALのオリジナルグッズが当たるbingo大会やクイズゲームなど、最初から最後まで温かいおもてなしでお迎えいただいたJALの皆様に対し、祐川看護副部長から「現場から1人も欠けてはいけないと気を張る毎日で、これまで交流の場がなかった。空と病院で場所は違えど命をあずかる立場は同じ。まだまだ続くコロナ禍をこれからも一緒に乗り越えましょう」と謝辞を伝えた。

開院以来、職種の垣根を超えた休日の集いなどがむずかしい状況下、この日は自然の中でリフレッシュしながら楽しい時間を過ごさせていただいた。



●JALの皆様と参加者で記念撮影

国際医療福祉大学病院

那須シミュレーション医学センター開設 実習も本格的にスタート

本年4月、那須連山を望む当院C棟6階に「那須シミュレーション医学センター」が開設された。当センターには40種以上のシミュレータ機器を配備し、医学部生をはじめ看護・医療系の学生、また臨床(初期)研修医や専攻医等が医療技術向上のためのトレーニングに励んでいる。開設から3ヶ月が経過したが、すでに利用者数は3,000人を超えている。

たとえば医学部生の場合、各診療科の医師の指導のもと、縫合や採血など基本的な手技訓練から、腹腔鏡シミュレータ・超音波診断装置シミュレータなどによる一歩進んだ体験まで、真摯に実習に取り組んでいる。

今後、全職員を対象としたBLS講習の実施のほか、一般市民への公開なども計画されており、当センターのますますの活用が期待される。

(総務課 中澤彩乃)



●学生の実習の様子

整形外科の市民公開講座を開催

7月16日(土)、整形外科の市民公開講座を開催した。感染対策を徹底した2千人収容可能な国際ホールで282人が参加。「せぼね・手・足の痛み、あきらめていますか?」をテーマに、整形外科の船尾陽生・准教授、中山政憲・講師、竹島憲一郎・講師がそれぞれ、脊椎脊髄、手・肩・足・股関節について講演を行い、参加者は手術動画や治療前・後の写真などに驚きながら熱心に聴き入っていた。質疑応答では多くの方から挙手があり、時間切れですべてにお応えすることができないほどだった。アンケートでは、「あきらめていた痛みは治る可能性があると知り、ぜひ診てもらいたいと思った」「手術のメリット・デメリットをきちんと話されていたので信頼が持てた」、「大学病院ならではの先進医療に驚いた」など好評のお声を多数いただいた。初めて来院された参加者は約6割、そのうち80人以上が診察券を作成し帰られた。

次回は8月20日(土)予防医学センターの市民公開講座「健やかに生き、健やかに老いるヒント」を開催。(広報室)



●市民公開講座の様子

国際医療福祉大学三田病院

林看護部長と菊池放射線室長が春の叙勲で「瑞宝双光章」を受章

当院の林真由美看護部長と菊池好子放射線室長が、春の叙勲で「瑞宝双光章(すいほうそうこうしょう)」を受章した。瑞宝双光章とは、長年にわたり公務などに従事し成果を収めた方に贈られ、内閣總理大臣の命を受けて所管大臣から適宜受章者に伝達される大変栄誉あるものである。両名とも、教育・研究を通じて人材育成・組織の活性化に尽力した功績が認められ、表彰された。

今回の受章にあたり、「今後も患者様に寄り添う温かな、心のこもった看護を提供できるよう、後進の育成に注力していきたい」(林看護部長)、「技術だけでなく、放射線技師の立場から病院経営に貢献できる知識についても伝えたい」(菊池室長)と今後の抱負を述べた。

お二人の指導のもと、今後も地域の皆様から信頼される、良質で安全な医療を提供する病院として日々励んでいく所存である。

(総務課 青島千恵)



●菊池好子放射線室長(左)と林真由美看護部長(右)

国際医療福祉大学熱海病院

「写真で振り返る熱海病院-20周年」を開催

2022年7月1日、当院は国立熱海病院を承継して20年を迎えた。その記念として、当院の外来ブースでは「写真で振り返る熱海病院-20周年」と称して写真展を開催。開院式、新病院竣工式など、これまでの歩みを振り返ることのできる写真を展示した。

熱海駅前や病院の様子は、同じ場所から撮影した写真を並べ、20年前と今の様子を比較できるようにした。写真の提供については職員のみならず、熱海市役所の秘書広報課にもご協力をいただいた。

来院された患者様が熱心に写真に見入る様子も見られ、ご自身の記憶を手繰り寄せ「なつかしい」と感慨深く話す方や、「前の病院の様子を知ることができた」と述べる方など、それぞれの思いを胸に楽しんでいる様子が見受けられた。

(総務課 木村玲於奈)



写真展の様子

国際医療福祉大学市川病院

「第77回・第78回 けんこう教室」を開催

5か月ぶりとなる「けんこう教室」を開催した。5月21日(土)、消化器内科部長の鈴木翔教授を講師に第77回「どうする? 大腸がんの予防と早期発見」を実施し、続いて6月18日(土)には、消化器外科部長の康祐大教授を講師に第78回「大腸癌のはなし 健診から診断・治療」を開催した。当院は今年の4月より消化器内科・外科診療体制を強化し、今回のけんこう教室はこの診療体制の強化を地域住民の方によく知っていただく機会でもあった。

募集開始時は、まん延防止等重点措置終了後で新型コロナウイルスも少し落ち着いていたが、参加は定員制とした。いずれの回も50人を超える申し込みがあった。

大腸がんを共通のテーマに、それぞれの専門分野から行われた講演は非常に有意義な内容となった。来場された方々は熱心に耳を傾けていた。

(総務課 細田幸生)



●消化器内科 鈴木翔教授



●消化器外科 康祐大教授

国際医療福祉大学塩谷病院

対面による市民公開講座の開催を再開

6月18日、塩谷看護専門学校講堂にて2022年度の「第1回市民公開講座」を開催した。

「放っておくと怖い骨粗鬆症～骨折リエゾンサービスとは～」と題し、菊池駿介整形外科医長が講演。新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面での公開講座を延期していたが、今回は徹底した感染症対策をしたうえで開催。59人のご参加をいただいた。

講演では、骨粗鬆症の検査についての話や、栃木県北地域で初めて導入した骨折リエゾンサービス(通称FLS: Fracture Liaison Service)と呼ばれる多職種連携チームの話などについて詳しく解説。骨粗鬆症の検査を行い、しっかり治療することで、骨折の予防は可能であると説いた。

受講者からは「内容がわかりやすく、自分も検査を受けたい」などの感想が多く寄せられた。

今後も、地域の皆様が関心のあるテーマを取り上げ、充実した講座の開催に取り組んでいきたい。

(総務・人事課 後藤文栄)



●多くの受講者が参加した市民公開講座

山王病院／山王メディカルセンター

東京ボイスセンターが山王メディカルセンターに移転

山王病院では、現在、診療科の拡張・移転工事を行っており、その一環として、5月下旬に国際医療福祉大学 東京ボイスセンターが山王病院から山王メディカルセンターに移転した。

東京ボイスセンターは、2001年に国内初の「声」の治療を専門とする施設として誕生し、あらゆる声の障害に対し、手術および切らずに治す音声治療までを駆使した幅広い診療を行っている。現在、渡邊雄介ボイスセンター長のもと、医師5人・ST7人と充実した体制で、年間500例以上の音声外科手術と1,800例以上の音声リハビリテーションを行っており、専攻医の教育にも力を入れている。

今般、山王メディカルセンター副院長に就任した渡邊センター長は、手術室の再稼働や耳鼻咽喉科・ボイスセンター診療の拡充、リハビリ診療再開など、ボイスセンターの充実とともに山王メディカルセンターのさらなる発展をめざしていきたいと語った。



●移転した診察室の様子(右: 渡邊雄介センター長)

2022年度

年間成績優秀賞決定

2022年度年間成績優秀賞受賞者が決まった。この賞の対象者は各学科の2年生以上で、学業成績などが優れた学生への顕彰を目的にしている。受賞者には奨学金が授与される。今年度は5キャンパス81人が受賞した。一昨

年、昨年は新型コロナウイルス対策のためキャンパスによっては表彰式を見送ったり、オンラインでの参加を認めたりしたが、今年の式典はすべて対面形式で行った。なお、小田原キャンパスの表彰式は秋を予定している。

大田原キャンパス

保健医療学部

看護学科	2年	松澤 来春
	3年	菊地 純香
	4年	山下 明香莉
理学療法学科	2年	会田 壮一朗
	3年	遠田 海佳
	4年	保利 ちひろ
作業療法学科	2年	三上 紗英
	3年	岡崎 茉莉
	4年	佐藤 瑠音
言語聴覚学科	2年	吉田 愛理
	3年	藤田 陽生
	4年	吉村 綾香
視機能療法学科	2年	吉田 彩菜
	3年	斎藤 明日香
	4年	杉田 拓真
放射線・情報科学科	2年	石川 里奈
	3年	駒場 翔
	4年	金子 祐大

医療福祉学部

医療福祉・マネジメント学科	2年	北條 有理佳
	3年	奥田 夏海
	4年	栗原 寿里愛

薬学部

薬学科	2年	増山 愛里
	3年	非公表
	4年	狩野 鳩斗
	5年	窪田 すみれ
	6年	熊田 知明



●大田原年間成績優秀賞表彰式

成田キャンパス

成田看護学部

看護学科	2年	橋本 優衣
	3年	非公表
	4年	田口 凜

成田保健医療学部

理学療法学科	2年	橋本 南
--------	----	------

大田原キャンパス

保健医療学部

看護学科	3年	君塚 里玖斗
	4年	綿貫 翔太
作業療法学科	2年	藏本 沙智子
	3年	渡部 穂洋
	4年	岡本 莉奈
言語聴覚学科	2年	窪谷 清音
	3年	増田 さりあ
	4年	岡部 まりん
医学検査学科	2年	有坂 琉生
	3年	寄川 裕斗
	4年	東海林 航太
放射線・情報科学科	2年	米原 裕哉
	3年	吉野 乃斗
医学部		



●成田年間成績優秀賞表彰式

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部

心理学科	2年	太田 麻里菜
	3年	飯村 康子
	4年	大石 知佳
医療マネジメント学科	2年	久保田 哲郎
	3年	吉崎 彩乃
	4年	青木 久実



●東京赤坂年間成績優秀賞表彰式

小田原キャンパス

小田原保健医療学部

看護学科	2年	松本 晴夏
	3年	後藤 賀子
	4年	日高 佐菜
理学療法学科	2年	古畠 怜奈
	3年	奥津 総太
	4年	大和 泰葉
作業療法学科	2年	市川 玲菜
	3年	中込 ひかる
	4年	谷川 晴夏

大川キャンパス

福岡保健医療学部

医学科	2年	山口 穗
	2年	MICHAEL
	2年	長谷川 可季音
	3年	HUANG WEICHEN
作業療法学科	2年	井上 琴賀
	3年	本堀 翔大
	4年	井 夏海
言語聴覚学科	2年	村田 杏子
	3年	斎藤 英恵
	4年	柴田 佳奈
医学検査学科	2年	野中 優子
	3年	武田 紗佳
	4年	坂口 稔愛



●大川年間成績優秀賞表彰式

2022年度9月から10月に各キャンパスで開催する予定のイベント日程をお知らせします。

新型コロナ感染対策を徹底した対面型のイベントを事前予約制のうえ開催いたします。

各イベントでは2023年度受験に向けた入試対策のほか、学科体験などのプログラムがあり、高校3年生だけではなく高校2年生・高校1年生ならびに保護者の皆様のご参加を歓迎いたします。

学科の特長や資格取得のプロセス、キャンパスライフ、入試制度など、本学の学びをライブで体験していただける絶好の機会です。来場者プレゼントなど参加特典もあります。



●総合ガイダンス

詳細はホームページでご確認のうえ、ぜひ、ご参加ください。

<https://www.iuhw.ac.jp/oc/>

また、9月11日は大学院のオンラインオープンキャンパスも開催予定です。大学院の詳細はこちらをご参照ください。
<https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/news/event/11750.html>

国際医療福祉大学
ホームページ



国際医療福祉大学
大学院 オンライン
オープンキャンパス



●学科体験



●個別相談コーナー

大田原キャンパス	成田キャンパス	東京赤坂キャンパス	小田原キャンパス	大川キャンパス	大学院
9/23(金・祝) オープンキャンパス	9/18(日) 入試対策説明会 ※医学部除く	9/24(土) 医学部留学生説明会 ※会場: 東京赤坂キャンパス	9/4(日) オープンキャンパス	10/2(日) ミニオープンキャンパス	9/11(日) 看護学科説明会
				11/6(日) ミニオープンキャンパス	9/11(日) オンライン オープンキャンパス
					福岡保健医療学部・ 福岡薬学部 入試対策講座
					10/8(土) 看護学科説明会
					10/9(日) 福岡薬学部説明会
					10/23(日) 入試対策講座

International University of Health and Welfare IUHW CONTENTS vol.130 August 2022

2~4 特集1 医学部6年生 初の海外臨床実習

5 キャンパスレポート特別編

高木理事長による大学入門講座
「国際医療福祉大学へようこそ」開講

6~7 特集2 生涯学習センター 再編成

三浦総一郎生涯学習センター長メッセージ/
第1回医療安全管理研修開催

8~9 オープンキャンパス・説明会

大田原キャンパス/成田キャンパス/東京赤坂キャンパス/
小田原キャンパス/大川キャンパス

10~11 トピックス

第26回あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式開催/USMLE合格者に受験料を支援 医学部生の挑戦促す
/小田原キャンパスで新入生対象のフレッシュマンプログラム開催/被災地支援にベルマーク運動で小中学校へ教材を寄贈/古武道の技と精神に学ぶー成田キャンパスの講座「世界の中の和文化」

12~13 施設インフォメーション

成田病院/国際医療福祉大学病院/三田病院/熱海病院/市川病院/塩谷病院/
山王病院・山王メディカルセンター

14 2022年度 年間成績優秀賞決定

15

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

小田原キャンパス編

バドミントン部

私たちは、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の1年生17人、2年生11人で活動しています。

現在コロナ禍ではありますが、手指消毒や体育館内の空気の入れ替えをはじめ、部員のワクチン3回接種を徹底して行うなど、将来、医療従事者になるという自覚を持ち、部員一人ひとりが体調管理をすることを条件として活動しています。

活動内容は、基礎打ち終了後、6チームにチーム分けをして総当たり戦を実施し、レベル別でコートを分け、試合を行っています。2

～3時間という短い練習時間ではありますが、経験者、未経験者関係なくバドミントンを楽しみながら充実した活動ができています。学年、学科、性別を超えて練習や試合を行うことで、将来、患者さんと接するにあ

たって必要となるコミュニケーション能力の向上につながる考えています。高校時代、新型コロナウイルスの流行により大会がなくなったり練習を禁止されたりと思うように活動できず引退した部員多いため、こうして活動できることをとても嬉しく思います。これからもバドミントンを通して多くの人と関わり、人とのつながりを大切にできる活動作りをめざします。

小田原保健医療学部 理学療法学科2年
広沼 楓子



●学年・学科・性別の垣根なく、部員それぞれがバドミントンを楽しんでいます！



●感染拡大防止に努めながら練習する部員たち

女子バスケットボール部

女子バスケットボール部では、毎週金曜日に城内校舎体育館で、1年生と3年生の約10人で活動をしています。残念ながら約2年間、新型コロナウイルスの影響で部活動を運営することができていませんでした。しかし、今年は部員の呼び込みを頑張ったことで、新入生も入り、6月から活動を再開することができました。そして、公式戦への出場も可能となりました。公式戦では、人数が少ないなかではありますが自分たちで作戦を立て、一勝を勝ち取ることができました。この結果を得ることができたのは、共に練習をした男子バスケットボール部の仲間や学生係の方のご協力があつてのことだと思います。

練習では、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、体育館の窓を開け換気をし、使った道具の消毒や部員の検温・手指消毒、プレー中のマスク着用など感染対策を徹底し練習を行っています。部員数もあまり多くなく、練習内容も限られてしまいますが、経験者未経験者に関係なくコミュニケーションを取りながら、学年の差

を感じないほど楽しく活動することができます。新たにメンバーが加わっても今の雰囲気のまま、充実した活動をしていけたらと思っています。

小田原保健医療学部 理学療法学科3年
梅本 由唯



●2年ぶりの活動再開に笑顔がはじける部員たち